

京都府子育て支援審議会・京都府少子化対策審議会
第2回合同審議会 開催結果

日 時 令和元年9月5日（木曜日） 午後1時～午後3時

場 所 ルビノ京都堀川 平安の間

出席者 伊豆田委員・伊藤委員・今西委員・岩前委員・内山委員・岡崎委員
榎田委員・楠委員・杉岡委員・杉本委員・高岡委員・田中(美)委員
田村委員・津崎委員・中田委員・奈良部委員・野々村委員・平野委員
藤井委員・松井委員・松田委員・森岡委員・山本委員・吉貞委員
吉田委員

● 「京都府子育て支援新計画」「京都府少子化対策基本計画」の検討について

(主な意見)

□出会い・結婚期

- ・赤ちゃんサロンを開いても父親の参加が少ない。男性育休をとりやすい環境になればと感じる。

□妊娠・出産期

- ・不妊治療は、男性の治療もあるが女性の問題と捉えられがちである。不妊治療に対する周囲の理解はまだまだ進んでおらず、啓発が必要である。

□保育・幼児教育期

- ・病児保育の必要性は高まっており、既存の保育施設を活用して実施できるよう支援の拡充を期待する。
- ・働き方改革が最も遅れている業界の1つが保育所・認定こども園・幼稚園だと危惧しており、働き方改革を早急に進める必要がある。
- ・保育士の勤務が過重となっている一因は記録等の書類作成業務が多いことであり、簡素化やICTの活用を拡大すべきではないかと考える。

□子育て期

- ・人の役に立ったり、人に助けを求めたり、人と人が支えあうコミュニティを育むことが大切。
- ・地域の絆が薄くなっている地域が増え、子どもたちだけで遊ぶことができる環境がなくなっている。子どもが安心して遊べるまちづくりなどを進め、京都府の色が出せないか。
- ・発達障害をもった子どもへの支援の拡充も重要な課題。

□意識・行動変革

- ・本計画の策定は、少子化に本格的に取り組む京都府のキャッチフレーズの打ち出しとして有効だと考えられる。
- ・若者は「楽しさ」がないと具体的な行動につながらない傾向がある。計画に「子育てが楽しい」と思ってもらえるメッセージを込めてはどうか。
- ・事業所や法人自らが、日本一のサービスを提供する気概をもって行動することが、子育て環境日本一の実現の鍵となる。